

施策が目指すまちの姿

環境に配慮した生活を意識し、みんなが暮らしやすいまち

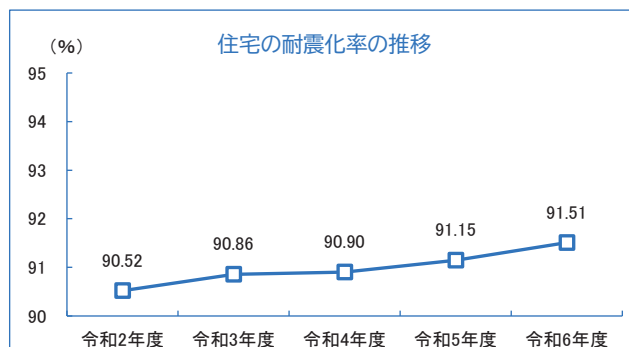
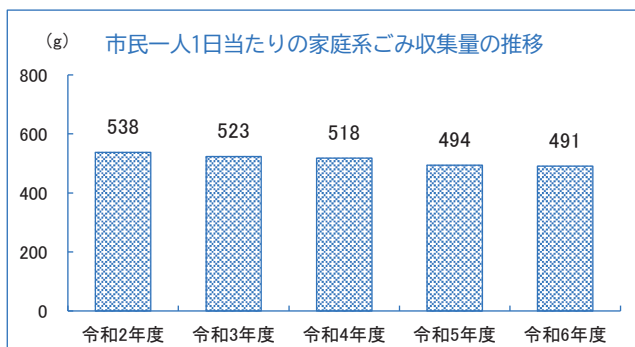
一人一人が環境美化への意識を持ち、限られた資源を有効活用し、快適な生活環境の中で暮らしています。

社会情勢・現状

- 市民の健康被害を防ぐため、騒音・振動等の環境モニタリング*1を実施し、その環境の人への影響を監視しています。
- はんのう市民環境会議において、ごみのポイ捨てに関するマナーアップキャンペーン、まちなか清掃活動を実施しています。
- 市民が自主的に行うごみ出しサポートに対する活動支援を行うとともに、監視パトロールの実施や禁止看板の設置など、不法投棄未然防止対策を実施しています。
- 原料及びエネルギー価格の高騰や社会的情勢の変化による物価・人件費の上昇が継続しています。
- 空家等の適正管理や利活用に関する周知・啓発を行っていますが、空家等が増加傾向にあります。

問題点・課題

- ごみの減量化や資源化、ごみの適正分別などの情報の周知啓発・理解が十分に浸透していないことから、ごみの適正な分別や減量化・資源化について、様々なツールを活用して周知徹底を図る必要があります。
- 施設の老朽化や物価上昇などに伴って、処理施設の維持管理コストが増大しています。
- 管理不全空家及び所有者等が不明な空家等に対して、法に基づく助言・指導を徹底していく必要があります。
- 耐震基準を満たさない住宅を解消するため、耐震化に向けた意識啓発や後押しする取組を行う必要があります。
- 老朽化した市営住宅の長寿命化や適正管理を図る必要があります。





本施策を推進する個別計画

- 飯能市環境基本計画
- 飯能市ごみ処理基本計画
- 飯能市一般廃棄物処理計画実施計画
- 飯能市分別収集計画
- 飯能市空家等対策計画
- 飯能市市営住宅等長寿命化計画
- 飯能市建築物耐震改修促進計画

主な取組

1 生活環境、公衆衛生、公害対策

- ① マナー啓発による意識の向上
- ② 環境モニタリングの継続

2 廃棄物対策と循環型社会の推進

強靱

- ① ごみ減量化、資源化の推進
- ② ごみ処理施設やし尿処理施設の適切な維持管理・整備
- ③ 不法投棄の未然防止対策の推進

3 安心して暮らせる住環境の整備

戦略

強靱

- ① 空家対策の推進
- ② 住宅の耐震化の促進
- ③ 市営住宅の長寿命化及びライフサイクルコスト*2の縮減

評価指標

評価指標	指標の説明	基準値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
公害に関する環境指標	騒音、振動等の公害に関する環境指標の達成状況	おおむね基準値超過なし	達成
一人1日当たりのごみ排出量	家庭系ごみ収集量/総人口 (資源ごみ及び事業系ごみを除く)	513g (令和2年度～令和6年度平均値)	500g
住宅の耐震化率	市内の全住宅のうち、耐震性のある住宅*の戸数割合	91.51%	95.0%

※耐震性のある住宅：昭和56年以降の建築及び昭和56年以前の建築で耐震性があるもの

*1 環境モニタリング (p.70) 天然資源や空気、水、土壌、生物多様性といった現在の環境状況を把握し、時間経過による変化を検知し、潜在的な問題を特定し、将来の状況を予測するためにデータを収集・測定するシステムのこと。

*2 ライフサイクルコスト 製品や構造物(建物や橋、道路などの施設)、設備などの企画・設計段階から、運用・保守、そしてその役割を終え、最終的な廃棄に至るまでの全期間に発生する総コストのことを指す。

施策が目指すまちの姿

人と自然と都市環境が調和し、効果的な土地利用が進むまち

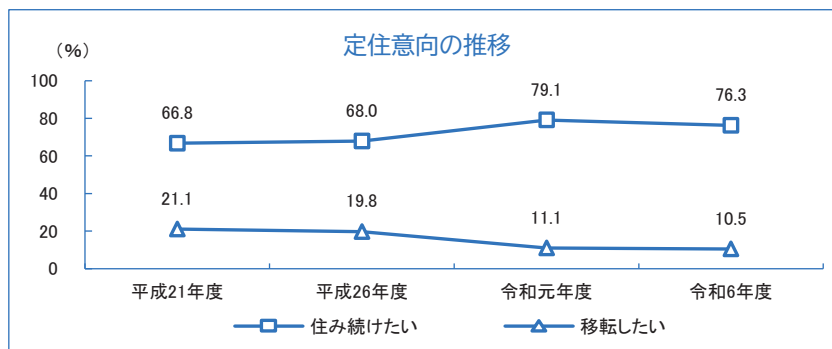
市街地、山間地域それぞれが互いの特性を生かし、交通ネットワークと連携しながら、多くの人の流れが生まれています。

社会情勢・現状

- 都市回廊空間の整備や都市回廊空間から山間地域への人の流れを誘導する観光施策を進めるとともに、市街地への都市機能の集積や居住の誘導と併せて郊外・山間部を公共交通でつなぐコンパクト・プラス・ネットワークによる持続可能なまちづくりを目指しています。
- まちなかの賑わいの創出やさらなる活性化を目指した「飯能まちなか未来ビジョン」を策定し、公民連携により、車中心から人中心のウォークアブルなまちづくりを進めています。
- 市街地の交通ネットワークについては、土地区画整理事業などの進捗に合わせ、民間事業者や地域住民と検討を重ねながら、利便性の向上及び路線の最適化に取り組んでいます。
- 山間地域の交通ネットワークは、鉄道、路線バスなどの民間事業者と地域団体による有償サービス等により確保されています。
- 土地区画整理事業の推進、地区計画*1や景観条例に基づく届出制度、開発許可制度等により、良好な住宅地等の形成を図っています。

問題点・課題

- 都市回廊空間及び山間地域相互の人の流れを増やすため、回遊性を高める仕組みの構築や交流拠点や山間地域の観光拠点のブラッシュアップが必要となっています。
- 精明東部地区に指定した産業用地を早期に埋めていく必要があるとともに、新たな産業用地の導入に向けた検討を行う必要があります。
- 山間地域における交通ネットワークは運行本数減少や運行距離短縮などが懸念され、今後は市街地でも同様の事態が想定されることから、さらなる公共交通の利用促進につながる取組が必要となっています。
- 少子高齢化による将来的な医療・福祉・商業等の生活サービス機能の低下、地域経済の衰退化が予測される中でコンパクトなまちづくりが必要となっています。
- 都市計画道路等の基盤整備が進む中で、沿道の土地利用や地区全体の土地利用の促進が必要となっています。





本施策を推進する個別計画

- 飯能市都市計画マスタープラン
- 飯能市立地適正化計画*2
- 飯能まちなか未来ビジョン
- 飯能市森林整備計画
- 飯能市地域公共交通計画
- 飯能市景観計画

主な取組

1 地域の特性に応じた利便性の確保・向上

戦略

強靱

- ①地域資源の有効活用
- ②地域の特性や機能を踏まえた地域活性化策の推進
- ③土地区画整理事業の推進
- ④立地適正化計画に基づく居住の誘導、都市機能の誘導
- ⑤地域公共交通ネットワークの構築
- ⑥社会情勢等の変化を踏まえた都市計画の変更

2 人の流れを生み出す戦略的な利活用

戦略

- ①都市回廊空間の整備
- ②市内を回遊する人の流れを活性化する公民連携による取組の推進

評価指標

評価指標	指標の説明	基準値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
飯能市の住みよさ	飯能市の住みよさについて「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と回答した人の割合 (総合振興計画の意識調査より)	82.3%	増加
実車走行距離あたりの年間利用者数	市内バス路線における年間の利用者数から算出 ①市内全路線 ②個別計画で定める軸となる路線	①1.95 人/km ②2.07 人/km	現状維持

*1 地区計画
(p.72)

都市計画法に定められた都市計画の種類の一つで、住民の生活に身近な地区を単位として、道路、公園などの施設の配置や建築物の建て方などについて、地区の特性に応じてきめ細かなルールを定めるまちづくりの計画のこと。

*2 立地適正化計画

人口減少・少子高齢化等の社会構造の変化に対応するため、都市機能と居住の誘導を図り、公共交通と連携したコンパクト・プラス・ネットワークの取組により、持続可能なまちづくりを実現するための計画のこと。

施策が目指すまちの姿

生活利便性と安全性が確保された住みよいまち

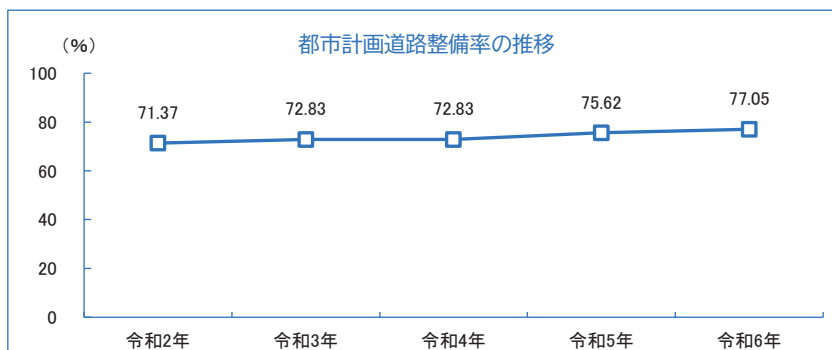
道路網及び公園の整備・保全が図られ、誰もが快適・安全に暮らしています。

社会情勢・現状

- 安全・安心に暮らしやすいまちを目指して、市内の都市計画道路や幹線道路及び枝線の整備による道路ネットワークの形成、また、市道の舗装修繕を進めています。
- 少子高齢化や人口減少社会の進行により税収が伸び悩む一方で、老朽化する道路インフラに対する維持管理コストが増大しています。
- 山間地域や高度経済成長期に整備された道路インフラの老朽化が進む中で、道路構造物を適正に維持管理するため、長寿命化に向けた点検調査等を実施しています。
- 本市には、52か所の都市公園があり、公園緑地内の植栽管理、清掃等の維持管理を行っています。また、公園美化活動団体による公園清掃や除草作業などのボランティア活動を支援し、市民の憩いの環境づくりを維持しています。

問題点・課題

- 橋りょうの耐震化、山間地域の道路防災対策、市街地の道路冠水対策が必要となっています。
- 線状降水帯等の豪雨災害の激甚化や首都直下地震の発生確率が高まる中、災害に強いまちづくりが求められています。
- 車中心から人中心へのまちづくりを目指し、安全安心な道路空間を確保するため、歩道や自転車通行帯の整備、無電柱化、バリアフリー*1化などを推進する必要があります。
- 増大する維持管理コストに対応するため、道路構造物の点検結果から修繕箇所の優先順位を決定し、計画的に対策を進める必要があります。
- 公園施設の老朽化が進んでおり、維持管理コストが増大していく傾向になることから、公園施設のあり方について検討が必要となっています。また、公園美化活動団体の高齢化による会員数の減少がみられ、継続に向けた対策も必要となっています。
- まちなかで、人々の集いや憩いの場など、交流できる空間が求められていることから、森林文化を感じられる空間づくりが必要となっています。



*1 バリアフリー

高齢者や障害者等が生活していく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)するという意味で、物理的、社会的、制度的、心理的、情報面など、様々な障壁がバリアフリーの対象となる。



本施策を推進する個別計画

- 飯能市都市計画マスタープラン
- 飯能市舗装修繕計画
- 飯能市橋りょう長寿命化修繕計画
- 飯能市公園施設長寿命化計画
- 飯能まちなか未来ビジョン
- 飯能市無電柱化推進計画

主な取組

1 安全で快適な道路環境の整備

戦略

強靱

- ①安全で快適に通行できる道路空間の整備
- ②渋滞解消や回遊性向上を目指した利便性の高い道路網の整備
- ③個別施設計画に基づいた道路や橋りょうの適正な維持管理と計画的な改築の推進
- ④地震や豪雨等の自然災害に強い道路整備

2 潤いを提供する公園緑地

強靱

- ①公園緑地の適正な整備・維持・管理
- ②公園美化活動の推進
- ③まちなかの緑地空間づくりの検討

評価指標

評価指標	指標の説明	基準値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
道路整備率	都市計画道路の整備率	77.05% (令和5年度末)	83.0% (令和11年度末)
公園美化活動ボランティア団体数	公園等においてボランティアで清掃美化活動を行う市民団体の数	30団体	33団体

基本目標 4



© Moomin Characters ™

施策
21

上下水道

施策が目指すまちの姿

将来にわたり安全で安心な水が安定して供給され、きれいな水が循環するまち

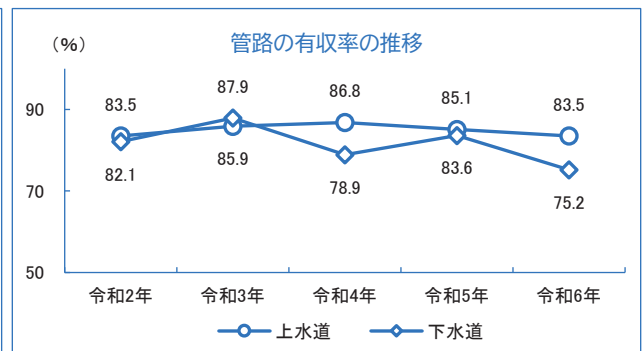
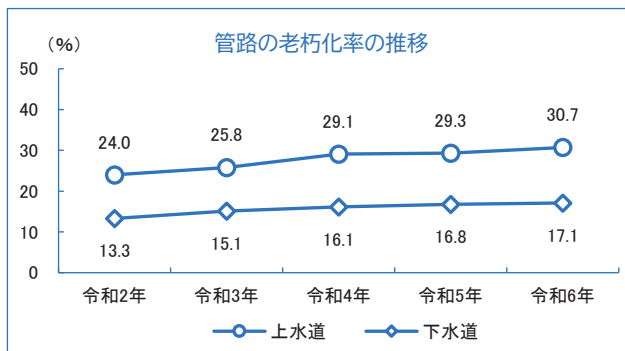
施設・設備の適正な維持管理や機能強化が図られるとともに、健全な上下水道事業運営がなされています。

社会情勢・現状

- 水道管及び下水道管が老朽化しており、耐用年数を超えた管路等の割合が年々上昇しています。これに伴い、老朽化した水道管の漏水や下水道管への地下水の流入により有収率の低下が顕著となっています。
- 大規模地震、豪雨、大型台風など、近年、自然災害が激甚化しており、災害時に対応できる体制づくりが求められています。
- 人口減少により水道及び下水道使用者数の伸び悩みによる収入減少が見られる中、物価高騰などの影響により工事や修繕に関する事業費が増加し、経営を圧迫しています。
- 技術系職員の確保がこれまで以上に困難になることが予測されており、経験の浅い職員や事務系職員を対象とした技術研修を通じ、人材育成に努めています。
- 未給水地域では、住民の飲料水を確保するために給水施設の整備、維持管理等に対する費用を軽減するための補助金を交付しています。

問題点・課題

- 耐用年数を超えた水道管及び下水道管の割合を示す老朽化率が年々上昇しており、破損のリスクが高まっています。このため、計画的な管路更新等、老朽化への適切な対応が急務となっています。
- 物価高騰などの影響により、水道料金や下水道使用料では事業費を賄えない状況が続いています。経営健全化と将来的な更新費用を確保するために、適切な料金や使用料等の設定を含む安定財源の確保が必要です。
- 持続可能な経営を行うためには、専門性を有する職員の育成が求められています。同時に、業務の効率化を進めるべく、民間企業等の利活用についての検討が求められています。
- 技術系職員の知識・技術を十分に継承し、次世代職員による円滑な事業運営を持続できる体制を構築する必要があります。





本施策を推進する個別計画

- 飯能市水道ビジョン ○ 飯能市水道事業中期経営計画 ○ 飯能市水安全計画
- 飯能市公共下水道事業基本計画 ○ 飯能市下水道事業経営戦略プラン

主な取組

1 上水道の安定維持と整備

戦略

強靱

- ①安全な水の安定供給
- ②災害に強い施設の構築
- ③持続可能な経営基盤の強化

2 未給水地域への対応

- ①未給水地域の給水施設の整備に対する支援

3 下水道の整備推進

戦略

強靱

- ①下水道普及率の向上
- ②災害に強い施設の構築
- ③適正な水質管理の実施
- ④持続可能な経営基盤の強化

評価指標

評価指標	指標の説明	基準値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
上水道管路の耐震化率	上水道の管路延長に対する耐震管の割合	26.9%	28.7%
上水道の有収率	配水量に対する有収水量の割合	83.5%	85.7%
公共下水道普及率	行政人口のうち、公共下水道を使用できる環境にある人の割合	73.4%	75.0%
下水道の有収率	汚水処理水量に対する有収水量の割合	75.2%	81.2%